アカイカ資源調査

(抄　録)

黄金崎　栄一　・　高　橋　進　吾　・　小　向　貴　志

はじめに

アカイカは全大洋の亜熱帯から亜寒帯にかけて分布する外洋性の大型種である。1978～1992年にはアカイカは主として公海流し網漁業により年間20～30万トンが漁獲されていた。しかし、国連決議により大規模公海流し網漁が中止となり、毎年我が国では4～7万トン程度が漁獲されるようになった。

アカイカのような単年資源の管理には、漁獲量一定の方策が適するといわれているが、そのためには、加入状況を把握することが不可欠となる。その意味でアカイカ漁期前の本調査は資源管理上有効なデータであるといえる。

又、本調査では、アカイカ標識放流を行い、アカイカ回遊経路を推定すると共に、海洋構造解明のための海洋観測も併せて行った。

用船期間は平成10年５月１日～６月10日までであった。

漁獲調査

調査ポイント及び各調査点における、CPUEを図1に示した。

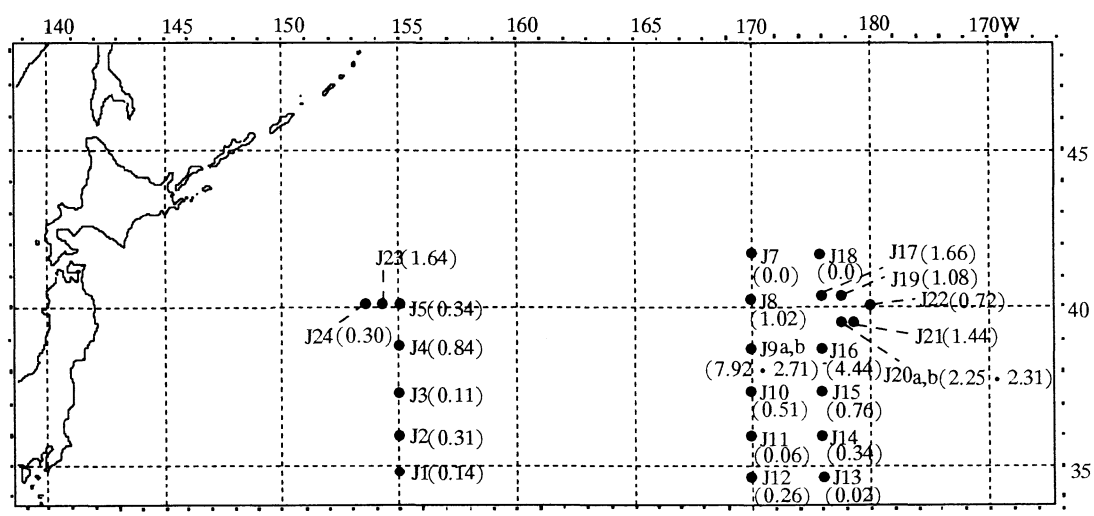
漁獲は、イカ釣により行われ、調査期間中、3,257個体が漁獲された。経度別に高いCPUEが得られた場所は、

５月上旬（155Eライン）　　…38° 43N

５月中旬（170Eライン）　　…38° 45N´、39° 00N´

５月下旬（175° 30´ライン）…38° 45N、41° 00N´であった。

図１



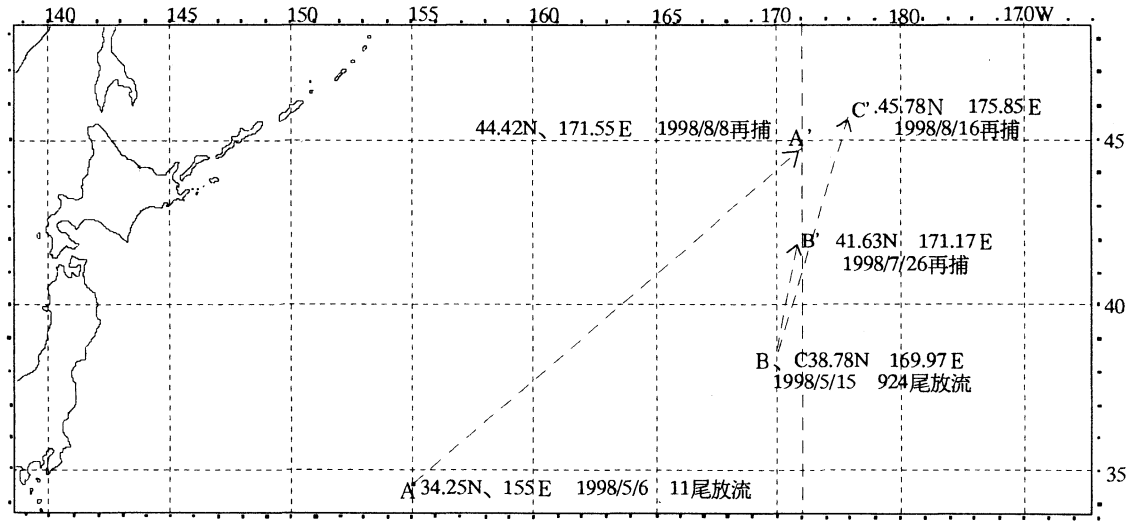
開運丸によるアカイカ資源調査ポイント及び各点におけるCPUE

※調査点はＪ6を除き、Ｊ９、Ｊ２０を２回の計25回行った。

標識放流結果

調査期間中2238尾が標識放流されたが、1998年11月20日において、再捕報告があったのは、3個体であり、放流場所と、再捕場所等については図2のとおりであった。

図2　アカイカ標識放流再捕記録



St		日付	緯度(N)	経度(E)	外套長(cm)	経過日数
J1	放流	1998/5/6	34.25	155E	31	
	再捕	1998/8/8	44.42	171.55E	37.5	74
J9	放流	1998/5/15	38.78	169.97E	33	
	再捕	1998/7/26	41.63	171.17E	43	72
J9	放流	1998/5/15	38.78	169.97E	33	
	再捕	1998/8/8	45.78	175.85E	40	93

海　洋　観　測

海洋観測はCTD、XBT、EPCS、ADCPにより行われた。表層における、塩分値34.0PSUを指標値とする亜寒帯境界の位置は5月上旬の155°Eでは、40°40´N、中旬の170°では38°47´、下旬の175°Eでは、41°30´N付近にみられ、これより、北方の海域では、アカイカCPUEは非常に悪かった。

CTDによる水温の鉛直分布の調査によると、アカイカが分布すると思われる、水深100～200mの水温とアカイカCPUEに相関がみられた。